

不滅の福澤プロジェクト始動！

中津市では「不滅の福澤プロジェクト」事業として、福澤記念館（旧居）と、中津歴史博物館において、1987年から2024年の40年間にわたり、壱万円札の肖像となった先生の偉業を後世に伝える企画展が行われています。

第一段は「昭和、平成、令和 諭吉とお札の40年」です。

壱万円札肖像交代記念として、日本銀行大分支店特別展示が福澤記念館で開催されました。裁断屑で作られた中津城や重さ体験用1億円パック、世界屈指のお札偽造防止技術を知るコーナーなど、子どもたちに大人気の内容でした。

第二段は私が見学した「華麗なる福澤家の人々」で、中津歴史博物館で開催されました。

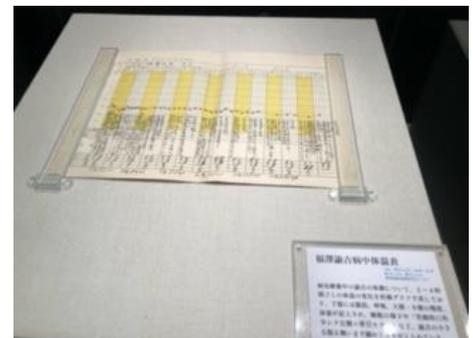
一章「福澤家の風景」では、錦さんとの結婚からお子さんへの愛溢れる先生のお姿が伺える内容でした。特に、注目したのは結婚後の姓の選択です。封建制度の根強い時代に妻と夫、それぞれの姓より1文字取って、新たな姓を作ることを提案されました。現在でも、夫婦別姓は決着がつかない難しいことと捉えると、身分制度の厳しい時代にもかかわらず男女平等を貫こうとしたのではないのでしょうか。

二章「諭吉の身体と健康」

先生は若い頃より、大酒豪家と知られています。健康面では、チフス、脳梗塞の大病を患われました。展示品「病中体温表」があり、見入ってしまいました。現在の経過表の原型でした。体温、脈拍、呼吸などバイタルサインが2時間から4時間毎に規則正しく記録され、その他にも、排泄の状況、先生の詳細な変化、動きも記録されていました。これは、何人かグループで先生の治療に当たっていたと推察します。今日では、電子カルテとなり、身体に挿入されたラインによって、モニターリングされます。進歩した医学を先生はどのように思われるでしょう。その他に、等身大のパネルも展示されています。

先生の還暦祝賀会の記念品で製作された灯台は素晴らしいです。西洋彫刻と江戸金工師の技術を結集したもので、近代の幕開けを象徴すると言われています。製図も展示されています。

先生のご性格が表れていると感じたのは、「病中回数別見舞品録」です。誰が、何を見舞に持参したか。何回来訪されたかと記されています。小さな事でも、気にとめる先生の気質!!の表れとと思いました。



三章「福澤諭吉と子どもたち」

5人の娘、俊、滝、房、光、里と名づけられ、当時、女子の名前は一文字が主流で、男子は長男、二男を表す例えば、長男の一太郎のように名付けられています。一太郎迷子札の実物、子どもたちの、病気、留学、結婚といった記録、手紙から子煩悩な父親像が伺えます。音楽一家の福澤家では、音楽会が開催され、そのプログラムの名前も興味深いです。社交的で西洋仕込みの、おもてなしの様子が判る展示となっています。

四章「息子たちの留学～福澤桃介～」

慶應義塾生であった岩崎桃介は諭吉・錦と養子縁組を結び、明治22年桃介が留学から帰国後に諭吉の次女・房と結婚しました。その際、桃介夫婦に男尊女卑の旧弊を払い世間の規範になるように求めたそうです。後に、桃介は様々な事業を手がける実業家になりました。房は雪香の号で多くの日本画を残しています。皆さま、福澤記念館を訪れて貴重な資料、日本画に触れていただけたらと願います。コロナ禍の今が残念でなりません。今回、記事を書くにあたり、中津市歴史博物館学芸員で慶応義塾福澤研究センター客員所員の松岡さんにご協力いただいたこと感謝します。

今年、中津、町おこしの一貫でマンホールアート「福澤旧居、学問のすゝめ」デザインがお目見えしました。JR中津駅北口、福澤諭吉銅像横の歩道にあります。（『三田評論、2022/2』にも記事）お天気が良く、他のマンホールも撮影しました。

中津歴史博物館は一昨年、中津城の敷地内に創立され、黒田官兵衛が築いた九州最古の近世城郭、中津城の石垣が観賞できる珍しい博物館です。皆さま訪れてはいかがでしょうか。私事ですが、3月末に後輩が訪れる予定です。3回目接種も済ませて、3年ぶりの再会にワクワクしています。

皆さまとお会いできる機会が見送りとなり、残念ですが、再会を楽しみにしております。

ではお元気でお過ごし下さいませ。

資料：中津歴史博物館パンフレット



渡邊郁美

